

上田仮説サークルニュース		11月例会	2017. 11号
編集責任 遠藤 裕		発行2017. 12. 16	
〒383-0041	中野市岩船426-3	サンガーデン中野B-G	TEL0269-23-2847 携帯090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先	長野工業高校 TEL026-227-8555

11月25日(土) 上田市中央公民館 3F第1・第2学習室
午後 3:00~9:00



参加者数 8名
資料総ページ 169 ペ

<参加者> 柳沢克央さん, 増田伸夫さん, 渡辺規夫さん, 田中浩寿さん, 北村秀夫さん, 北村知子さん, 高見沢一男さん, 遠藤裕

はじめに 11月例会の参加者は8名。

レポートは、渡辺さんから3本、柳沢さんから16本（新聞記事の紹介は1本にまとめました）、増田さんから3本、田中さんから1本、高見沢さんから1本。合計は24本。総ページ数は169ページ。

渡辺さんは、資料発表のほかに<静電気ベル>（フランクリン）の紙芝居を紹介してくれました。

高見沢さんは<ビー玉の結晶模型>をまた用意してくれ、参加者で確かめることができました。

今回もたくさんの資料発表があり、充実したサークルとなりました。

「大戸屋」で夕食会。

1. 発表資料

① サークルニュース 10月例会 遠藤 裕 (15ペ)

1. 発表資料

① サークルニュース 9月例会 遠藤 裕 (14ペ)

② 読書メモ 2017年10月号 柳沢克央さん (36ペ)

山田剛史/林創共著『大学生のためのリサーチリテラシー入門

—研究のための8つのカー— (ミネルヴァ書房) ほか

③ 信毎記事の紹介：幼児・大学教育に予算を 柳沢克央さん (1ペ)

出口治明氏 (ライフネット生命保険創業者) の記事の紹介。

④ 紹介 『図解 最強の働き方』より 柳沢克央さん (4ペ)

出口治明著『図解 最強の働き方』(PHP 研究所 2017年)からの紹介。

- ⑤ ブログ「内田樹の研究室」より紹介 リンガ・フランカのすすめ 柳沢克央さん（４ページ）
- ⑥ 新聞記事の紹介 （９ページ）
 9月26日から10月19日までの信毎，朝日，読売の記事の紹介
- ⑦ 紹介 小池百合子と「アフヘーベン」 柳沢克央さん（１ページ）
 山田明彦さんからメールで送られてきた文章の紹介。
- ⑧ 紹介 「たぬきそば きつねうどん」 柳沢克央さん（１ページ）
- ⑨ 東海地区化学教育討論会 柳沢克央さん（４ページ）
- ⑩ 紹介 中島みゆき「目を開けて最初に君を見たい」 柳沢克央さん（２ページ）
- ⑪ 紹介 『図解 超・シンプル仕事術』より 柳沢克央さん（４ページ）
- ⑫ ビー玉パズルのその後 高見沢一男さん（１ページ）
- ⑬ 紹介 科学映画「遺伝の仕組み」で授業をしてみませんか 渡辺規夫さん（10ページ）
 長谷川智子（東京，中学理科講師）さんの資料の紹介。
- ⑭ <今月の本紹介21> 増田伸夫さん（28ページ）
 〔要約〕：神に頼らぬ仏教は一神教よりずっと合理的！
- ⑮ <信州岩波講座2017> 講義メモ 増田伸夫さん（8ページ）
 信州岩波講座の講演会のメモの紹介
- ⑯ <信州岩波講座2017> 講義メモ 増田伸夫さん（8ページ）
 信州岩波講座の講演会のメモの紹介
- ⑰ 矛盾論について考える 渡辺規夫さん（7ページ）
 渡辺さんの「矛盾論」の研究。
- ⑱ 矛盾論のレジュメ 渡辺規夫さん（4ページ）
 渡辺さんの「矛盾論」の研究のレジュメの紹介。

② 《不思議な石 石灰石》の授業アンケート 渡辺規夫さん（8ページ）

専門学校での授業アンケートのまとめと仮説実験的認識論メーリングリストへの投稿。

<授業アンケートのまとめ>

1. 科学読み物「石灰石と地球の歴史」で印象に残ったことを書いて下さい。
2. 分子模型やボンテン分子模型は理解するのに役立ちましたか。
3. 化学反応式について理解できましたか。
4. 授業評価
5. 《不思議な石 石灰石》の授業の感想を書いて下さい。

<仮説実験的認識論メーリングリストへの投稿（転載）>

(生徒さんの評価もすばらしく、生徒さんの感想を読むと、実際にボンテンを使って反応式を考えることで理解を深めることができたようです。 エトワ)

③ 「**〔原典翻訳〕落下運動ーガリレイ力学のなりたちー**」を読む2 渡辺規夫さん
(10ペ)

『物理学史研究』に掲載されている板倉先生の原典翻訳の精読。

『物理学史研究』Vol.1 No.5(1959年10月)より

5・6 重い物体の場合の終速度と視差の問題ーガリレイの残留力理論(2)ー

5・7 高いところからの落下実験

5・8 ピサの斜塔の実験の物語りの出典ーヴィヴィアーニのガリレイ伝ー

5・9 ガリレイのインペト(衝撃)の理論と $s=1/2kt^2$ の法則(サルピへの手紙)

5・10 $v=ks$ 法則による $s=1/2kt^2$ 法則の間違った証明 ガリレイ(1604)

(板倉さんのもとの論文に、分かりやすいように渡辺さんの解説がつけられています。ガリレイはとことん落下運動を研究したことが伝わってきます。 エトワ)

④ 松原舜氏の「**量子力学を理解するには何をすればよいか**」を読んで 渡辺規夫さん
(1ペ)

同窓会報の松原舜氏の記事を読んでの感想。

松原氏は、「量子力学がわからないのは線形代数がきちんとわかっていないからだ。」といています。そのとおりだろうと思います。しかし、その一方でわからなかったのはそのためだけかなという気もしています。

なぜ物理は難しいのか。その理由はいろいろあると思いますが、私は「物理はわからないときはいくら考えてもわからず、わかったとたんに当たり前のことを言っているように思えて、説明するまでもないと感じてしまうところにある」ように思えてなりません。私は高校物理を教えて来ましたが、初めて物理の授業をするとき、高校の教科書を読んで当たり前のことしか書いてなくて、説明するところがないと感じてしまいました。そのことを先輩の教員に相談したところ「先生にとって当たり前のことも、生徒にとっては当たり前でない。」と教わり、なるほどと思った経験があります。実際生徒に物理を教えてみて、生徒にとっては物理で言っていることは当たり前ではなく、ほとんど理解不可能なことと感じているようでした。

私自身はその後、「物理がわからない」という生徒にどう説明すればわかるかについて悪戦苦闘した結果、高校物理の勘所についてはかなり明らかにしてきたと思っています。大学の物理についてもいろいろな人にどこを突破したらわかるようになったかという経験談を書いてもらうととても役に立つように思います。とにかくわかってしまった人には当たり前すぎて説明するまでもないと感じられてしまうのですが、わからなかつ

た自分がここでわかったという経験を披露してもらうことは貴重なことだと思うのですがいかがでしょうか。

(高校で物理を教えていると、高校の物理の段階で理解が止まってしまっています(エンドウは)。普段からもう少し専門的に学ばなければいけないと反省しています。 エンドウ)

⑤ 校長講話(平成29年度 2学期始業式) 田中浩寿さん(2ペ)

川上第一小での田中さんの2学期始業式での校長講話。

2学期が始まるにあたってのお話の後、わくわく科学実験を紹介。内容は、「吹き矢」の力学。3つの問題に予想をしてもいい、理由を聞いてから実験。この問題を人間の努力に応用するとどんなことが考えられるか、についてもお話ししたようです。

この実験から、「力を長い時間かけ続けた方が、速さが増して、遠くまで進むことができる」と言えますね。これらのことから考えて、みんなに2学期願うことは、川上第一小学校の目標の一つである「くろうをいとわないう子」に……なってほしいということです。

川上第一小学校の目標	
<input type="checkbox"/>	し じぶんから学ぶ子
<input type="checkbox"/>	や やくそくを守る子
<input type="checkbox"/>	く くろうをいとわないう子
<input type="checkbox"/>	な なかよく助け合う
<input type="checkbox"/>	げ げんりゅうの里を愛する子

(校長講話で、科学実験。田中さんならではの講話ですね。子どもさんたちも楽しかったにちがいません。 エンドウ)

⑥ ある旅行の記録 柳沢克央さん(10ペ)

—「こだわり」を捨てて「リミッタ」外す旅—

柳沢さんの「特派員報告 兼 誕生日レポート 兼 新入会員レポート」。

武田科学振興財団の贈呈式への出席を機に、今回の旅行が実現。11/11(土)～13(月)の2泊3日。

◆はじめに より

1989年11月5日(日)、24歳の新卒高校教員だった私は、関東仮説実験授業研究会の主催する「フェスティバル・イン・くにたち」で見物の方1名の聴力を傷つける爆発事故を起こしてしまいました。このことで板倉先生はじめ多くの研究会員の皆様にご迷惑をおかけしました。この場で改めて深くお詫び申し上げます。これを契機に当時、板倉先生から「事故学」の研究を進めるよう依頼されましたが、現在までまとまった形にすることができていません。

この状態から脱却すべく、板倉先生にお会いすることを決め、私としては計画的に準備を進め、このたび一世一代(いっせ・いちだい)の旅行をしてまいりました。

◆日程概要 ◆この旅行の実現まで ◆サロン・ド・シマジ ◆同期会 ◆K 先生に会う ◆シェラトン都ホテル東京にて前泊 ◆贈呈式にて ◆板倉先生の御見舞い ◆仮説社へ ◆11 月 15 日(水)の私

◆謝辞 より

「大風呂敷」を承知で記しますが、私にとって日本が敗戦国であること、1989 年 11 月 5 日（日）のこと、2011・3・11 の福島第一原発事故のことは一体不可分のことであるようなのです（「こだわり」を捨ててで…なんて書いていますが、新しい「こだわり」ができたのかも知れません…）。

「人はみな原子でできた特派員」＝私たちは宇宙から生まれ、そして宇宙に還る存在です。「私たち一人ひとりが〔かくや姫〕』というのはいかがでしょうか。「誕生日母から生まれた日のほかに何度も定義できる人間」＝コミュニケーションを通じて、人は日々、そして瞬間瞬間に進化することができます。「長き年過ぎて新たに入会す仮説実験授業研究」＝色々なことを乗り越えて、ここに気持ちを新たにして本日只今、気持ちの上で新たに入会し直し、仮説実験授業の発展に貢献することを宣言します。この 29 年間でわかったことを一言でいうと、「仕事は早く（速く）やれ」ということです。犬塚清和さん、伊藤善朗さん、教えてくれてありがとうございます。

追伸：このレポートを書いている最中、一番苦しい時に横浜の小林光子さんから直筆の心のこもったお手紙を戴き、大変励まされました。ありがとうございます。手紙というものはこういう風を書くものなのかと感激しました。（了）

（柳沢さんの決意が表れているレポートです。研究会に「新たに入会し直し」と、これからの柳沢さんの活躍がますます楽しみです。とはいっても、くれぐれも体調を崩されませんように、健康第一で。 エンドウ）

⑦ 島地勝彦著『愛すべきあつかましさ』より 柳沢克央さん（9 ペ）

島地氏の著書の 8 ページから 16 ページまでの紹介。

仕事を動かす知恵のなかで、いちばん爆発力がでるのは、愛すべきあつかましさではないだろうか。相手に愛すべきあつかましさをもってぶつかれば、仕事は動くはずである。また、ステキな友達もつくれるし、美しい恋人だって生まれる。

愛すべきあつかましさこそ、人生のマスターキーなのだ。それは、どんな未知な人のこころも開けられる魔法の鍵である。

『愛すべきあつかましさ』島地勝彦著（小学館 101 新書・2010 年）より
（島地氏が、集英社の就職試験で人生はじめての「愛すべきあつかましさ」を遺憾なく発揮した話がとてもおもしろいです。 エンドウ）

⑧ 『愛すべきあつかましさ』および『図解 超・シンプル仕事術』を読んだ感想

柳沢克央さん（12ペ）

島地氏と高橋氏の本を読んだ生徒の感想の紹介。

島地勝彦著『愛すべきあつかましさ』（小学館 101 新書・2010 年） 「序章」

高橋政史著『図解 超・シンプル仕事術』（PHP 研究所・2017 年） 32,33 ページ

篠ノ井高校 2 年生 18 人， 3 年化学選択者 32 人の感想。

<生徒さんの感想より>

○愛すべきあつかましさが将来の人生で大きく自分を左右するかもしれないことが分かった。日頃から現実的に物事を考えることは大切だけれど、大きすぎる夢を持つことのほうが必要だと思った。

今回、読んでいたなかですごいと思ったことは、そのあつかましさを面接という自分の人生の分かれ道になるところではっきりと人に言っていることだった。今の自分にはそんなことを言える勇気もあつかましい夢も持つことができないけれど、まずは一年先にどんなふうになっていたいかを想像して残りの受験生シーズンを過ごしていきたいです。

○文章を読んで映像化が大切なんだと思った。自分は何か決めるとき、具体的な内容を決めず、その時の流れでやってしまうことが多いのだが、たしかにそうすると初めの展開から大きくずれてしまったり、長々となってしまう、まとめられないことが多い。

こういったことがしたい、こんなものをつくりたいといったビジョンを頭の中できちんと描いて、そこへたどり着けるようがんばっていきたいです。

（生徒さんの感想を読むと、島地さんの話に多くの生徒さんが感銘を受けたようです。この本はぜひ読んでみたいです。 エトワリ）

⑨ 紹介：超一流のプレゼン、その秘密は「映像化」 柳沢克央さん（2ペ）

高橋政史著『図解 超・シンプル仕事術』（PHP 研究所・2017 年） 32,33 ページ。

◇二流は説明する，一流は「映像化」する ◇評価される報告書を最速で書く

高橋氏は次のように書いています。

思考をクリアに整理できない，プレゼンがうまくいかないとき，じつは頭の中で「映像化」ができていなかった…という大きな気づきを得ました。その日以来，頭の中で「映像化」することを習慣化しました。

POINT 思考をクリアにするために頭の中で「映像化」してみよう

（会議などで発表する時「映像化」を意識し，効率的に話をしたと思います。「映像化」は普通の授業でも活かそうです。 エトワリ）

⑩ 紹介：出口治明氏「メシ・風呂・寝る」から「人・本・旅」へ 柳沢克央さん（8 ペ）

ライフネット生命保険創業者 出口治明さんインタビュー(前編)。

白河桃子(少子化ジャーナリスト・作家, 相模女子大客員教授) すごい働き方革命 より紹介。
政府が掲げる働き方改革の中で, 中核をなす「長時間労働の是正」と「生産性の向上」。
何をすればいいのか, どうすればいいのかを出口さんにインタビュー。

■貧しくなりたくなければ, 生産性を上げるしかない

■労働時間は2時間×3, 4コマが限界

■生産性向上に, 女性活躍は必須条件

■「時間をかければいい仕事ができる」は幻想

出口氏は次のようにしています。

どうすれば生産性を高められるかと言えば, 僕はいつもこんなことを提案しています。
労働時間を2時間×3, 4コマにして, ちゃんと休んで, 「人・本・旅」の生活をする
ことです。

「人・本・旅」とは, 人に会う。本を読む。最後の「旅」は, 現場のことです。おいしいパン屋さんができたら, 行って, 買って, 食べて, 初めておいしさが分かります。
脳に刺激を与えなければ, アイデアなんか出てこないんですよ。

まとめると, 生産性を上げるためには, 二つのことが必要です。一つは, 「メシ, 風呂, 寝る」から「人・本・旅」に切り替えるために, 長時間労働をやめること。もう一つは, サービス産業の6~7割を消費しているのが女性なのですから, 女性を積極的に登用しなければならないということです。

◆紹介者のひとことから

「人・本・旅」というキャッチフレーズは秀逸だ。説明されなければ, なんだか良く分からないが, 一度説明を聞けば, とてもよく分かる。「3つ」に絞り込んでいるところがポイントだ。レポートを書く時に, この発想をしっかり応用させてもらった。

実際に旅をしてみると, 本当に「人との出会い・本を読むこと・旅をすること」が密接に絡み合って, えもいわれぬ滋味が醸し出される。真似をして実行してみて良かったと思えるキャッチコピーだ。

さあ, よろしければ, あなたも「人・本・旅」で人生をさらに活性化させてみませんか。私は「検証してみて良かった」と思っています。次のテーマは再現性の追求…かな?

(出口氏の「メシ, 風呂, 寝る」から「人・本・旅」に切り替えるという提案。心にとめておきたいです。 エトワリ)

⑪ 紹介 朝日新聞「声」 日本語なまりの英語に拍手が 柳沢克央さん (1 ペ)

朝日新聞「声」より紹介。(2017年10月31日(火)付)

<要旨> 英語はネイティブな発音にこだわる必要があるのだろうか。瀬戸内海の直島を訪れたとき、シャトルバスの男性の運転手さん(60代後半くらい)が日本語なまりの英語で「直島に来てくれてありがとう」という趣旨のアナウンス。乗客はほとんど外国人。アナウンスが終わると拍手が起きた。日本語なまりもいいのではないか。英語習得のハードルが少し下がった気がする。(主婦 東 智子 東京都 36)

柳沢さんのひとこと 「リング・フランカ」とは国際共通語と理解している。英語をどう学び、どう話し、どう使うかは話し手たちの意識によって決まるはずである。英語教育関係者に限らず、使い手のためになる方法論を考える意義はとても深いはずである。

(最近、英語教育の改革の話しを英語科の先生から少しお聞きしたことがあります。何を目指した改革なのかそれでよいのか、よく分かりません。 エドワ)

⑫ 新聞記事の紹介 柳沢克央さん (5 ペ)

10月24日から11月6日までの信毎、朝日、の記事の紹介

信毎歌壇、政治、国際、地域、スポーツ、斜面、天声人語などの記事を紹介。各記事に柳沢さんのコメントが書かれています。

⑬ 紹介 エンスタナビ ミスが点数左右 一定時間を演習に 柳沢克央さん (1 ペ)

朝日中高生新聞「エンスタナビ」より紹介。(2017.11.5)

大学入試に向けた数学の勉強法についてアドバイス。進学塾の市進予備校・高校部指導室の小山一弥さんにインタビューした記事。

- ・ 反復練習で「守り」を固める！
- ・ 1冊の問題集を繰り返し解く！
- ・ 手を動かすのをいとわない！

本の紹介 この勉強本がすごい！

『受験脳の作り方 脳科学で考える効率的学習法』池谷裕二著 新潮文庫 562円

柳沢さんのひとこと 化学平衡の計算問題を解いてみて気づくだろう。「これはほとんど数学そのものだ」と。ならば学習法も…。

(数学の学習法、しっかり身につけたいです。やはりドリルが大切？ エドワ)

⑭ 「アンビグラム」を紹介します 柳沢克央さん（2ペ）

アンビグラム4種類の紹介。

「愛の夢」「星雲」「回転寿司」「たぬきそば きつねうどん」

上の4つの言葉が書かれている文字を、180度回転させても同じ言葉に見えます。不思議です。

「やわらかな頭と心たいせつに」と柳沢さんのコメント。

（逆さにしても同じ言葉で読める。不思議なデザインです。 エドワ）

⑮ 紹介 篠高 3学年 進路通信 柳沢克央さん（1ペ）

進路通信の紹介。

篠ノ井高校3学年担任西村博文氏の「目が覚めるとき」という文章で、大変素晴らしいので紹介してくれました。

<一部掲載> これまでを思い起こしてみると、目が覚めた、といえる高校生や卒業生を何人も見てきたし、自分で「目が覚めました」といっていた人もいた。目が覚める、という表現が正しいのかどうかはわからないが、どう生きていくべきなのかに気づいて、必要なことを実行することのできる自分になった、と言うことかもしれない。「今まで、なんであんなだったのだろう?」「今まで、ものすごくもったいない生活をしてきた。」「気がつかなくて昔のままだったら、今頃どんなふうになっていただろう。」“目が覚めた”人はこんなことを言っている。そして、話すことも、やることも、昔とは違う。別人のようだ。“目が覚めた”人は強い。

（「目覚めた人」私も時々で会います。すばらしい文章です。 エドワ）

⑯ ブログ「内田樹の研究室」より紹介 大学教育は生き延びられるのか? 柳沢克央さん（16ペ）

内田氏の「国立大学教養教育実施組織会議特別講演会・サポートホール高松にて」の講演録の紹介。(2016/05/19)

◆紹介者のひとこと

内田氏のブログから紹介します。小見出しが全くないので、付けようとも思いましたが、それをすると元のブログの意図からずれることもあるかと思い、やってありません。要するに、本稿の要旨は「日本の大学教育は文科省の行き過ぎた統制の影響下で先細りになりつつある」ということと理解しました。

内田氏のこの講演記録は、今後の大学教育の展開を考える上で無視してはならない重要な指摘かと思います。私も残念ながら認めざるを得ず、特に反対する見識を持ちません。

大学の英語教育をどのように行うべきかも考える必要があると思われます。長野県立

大学の設立に関わるシンポジウム〔11月18日（土）開催予定〕で、どのような話題が出るかは今後を考える上で注目すべきだと思っています。

この紹介資料を作成している11月9日（木）現在の私の予想は、「長野県教育委員会の方針が国の方針と大きく異なることは有り得ない。したがって、このままの方針で設立、運営されると仮定すれば、新設県立大学もご多分に洩れずに教育成果はあまり上がらず、長期的には先細りとなることだろう」です。サークル例会でこのことについても報告できるように、聞くべき話題はしっかりと聞いてこようと思っています。

あまりにレベルが低い場合には、途中退出することも有り得ますが…。さて、どうなりますか？〔2017年11月9日（木）14:00〕

（これからの教育、どのようになって行くのでしょうか。制度が変わっても、仮説実験授業だけは永遠不滅だと考えています。 エンドリ）

⑰ 紹介 ナイ氏「トランプ再選はない」、アーミテージ氏「北朝鮮問題、外交解決は可能」 柳沢克央さん（2ペ）

日経 CSIS シンポジウムからの紹介。

日本経済新聞社と米戦略国際問題研究所(CSIS)が共催する第14回シンポジウム「トランプ時代の日米同盟」が27日、都内で開かれ、リチャード・アーミテージ元米国務副長官とジョセフ・ナイ元米国防次官補が登壇した。アーミテージ氏は北朝鮮の核問題は関係国による外交的解決が可能との考えを表明。ナイ氏はトランプ米大統領の再選は困難との見方を示した。

◆紹介者のひとこと

増田伸夫さんのレポートだったと思うが、日本経済新聞社の社是は「親米路線」であることが書かれていた。このことが明確に分かる記事。なかなか味わい深い言い回しで、トランプ氏が大統領であることが不愉快な旨、記されている記事である。

米戦略国際問題研究所(CSIS)とこのようなシンポジウムを共催するのだから、日経の「親米」は超鋼鉄バリバリの筋金入りだ。日々、本紙を読み込めば、さらに深いことが見えてくるのかもしれない。

いずれにせよ、日本政治および日本経済は米国政治の動向によって大きく左右されることは、今までの経験から100パーセント間違いないと言って良からう。

さて、来日するトランプ氏に持たせる「お土産」は一体何なんだろうか。外務省、経済産業省はさぞ戦々恐々としていることだろう。興味津々である。

（アメリカの日本への影響、正しく情勢を分析していくことが大切なようです。 エンドリ）

⑱ 入学試験の矛盾論（メモ） 柳沢克央さん（1ペ）

入学試験の矛盾についてのメモの紹介。

①人生が懸かっている（学歴決定）と同時にゲームの要素が大きい（合計点主義）。

②答案はベストを尽くすべきものであると同時に妥協の産物とすべきものである点。

③答案は小手先で作成するものだが，全人格が反映するものでもある。

④受験は大変だけれど，どこか楽しい（運転免許取得のヨロコビ）。

柳沢さん 「このようなメモが出てきた ごらんあれ」17年経っても特に変更するところはないが，これって進歩していないということか…ちょっと複雑。

（矛盾論を使っていかに研究を進めるか。私はそこまで考えるところにまだまだ到達していません。

サークルで学んでいきたいと思います。 エドワ

⑲ メールやりとの紹介 柳沢克央さん（2ペ）

山田明彦さんからのメールと柳沢さんの返信メールの紹介。

<一部紹介> 弁証法を科学にしまうと，使えない!? 発想法にすれば使える！それが板倉先生のすばらしさです。

三浦つとむの本の中で，発想法的に使えるのが「あれかこれか→あれもこれも」です。それで書いてみました。世阿弥『風姿花伝』にある「離見の見」…いいですね。

「(ウソの作文を書くには)想像力が要求されます。それも自分の姿を頭の中に描き，外から眺めるような想像力です。私(主観)的世界にとどまることなく，自己を客観化しようとすることで，虚構の世界を描くことが可能となるのです」この文章を書いたとき，僕の頭にあったのは，三浦つとむ『弁証法はどういう科学か』の第3章の〈5〉認識論と弁証法—その三，世界の二重化と自分の二重化です。根本進「クリちやん」（朝日新聞）の漫画が出てくるところです。

この観念の自己分裂、二重化の部分は人の予想や仮説を作る部分なので，正解や誤解の源です。また，心を病む人の誤認識や歪んだ考えの世界でもあります。直接手に取って見えない世界なので，なにがしかの表現を仲立ちにしてとらえていくしか仕方がない「見えない世界」です。それをどのように認識することができるか，できないかをめぐって実存主義や現象学，構造主義のような哲学の発想が生まれています。

（「ウソの作文」，哲学的にも奥が深いということが分かりました。 エドワ

⑳ 読書メモ 2017年11月号 柳沢克央さん（28ペ）

山田剛史/林創共著『大学生のためのリサーチリテラシー入門

—研究のための8つのカー』（ミネルヴァ書房）ほか

柳沢さんが読んだ本の紹介。

◇はじめに

先月はタイトルの本が紹介できなかったので今月はトップで紹介します。良い本です。「もう一度大学生に戻りたい」と思ってしまうほど、素晴らしいです。

先月号までの「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、今回もこのメモを作成しました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく（適当に）おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。（私物）と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

私物の「積ん読」本が増え「読書予定リスト」は以前にも増して充実しています。まだまだたくさん「課題図書」があります。読書の秋です。スムーズに流れるように「消化吸収」を進めていく予定です。

◇読書記録または読書メモ（順不同）

- ◎山田剛史・林創著『大学生のためのリサーチリテラシー入門』（ミネルヴァ書房・2011年初版・2016年9刷）（私物）
- ◎小室直樹著『日本いまだ近代国家に非ず』（ビジネス社・2010年）（私物）
- ◎河合雅司著『未来の年表—人口減少社会でこれから起きること—』（講談社現代新書・2017年）
- ◎出口治明著『座右の書 「貞観政要」』（KADOKAWA・2017年）（私物）
- ◎山本七平編『帝王学 「貞観政要」の読み方』（日経ビジネス文庫・2001年）（私物）
- ◎呉兢著・守屋洋訳『貞観政要』（アちくま学芸文庫・2015年）（私物）
- ◎佐々木常夫著『ビジネスに活かす「孫子」』（PHP ビジネス新書・2017年）（私物）
- ◎早野龍五・糸井重里共著『知ろうとすること』（新潮文庫・2014年）（本書は文庫オリジナル作品）

◇次回以降の予告 18冊

◆まとめ・つぶやきなど ほんの一部掲載

○予定の時刻となったので「本稿はこれで打ち留め印刷へ」。「最後までお読み下さりありがとうございます」。「午後すぐに次の仕事に取りかかる」…と書いたが、「イメージ通り進まぬコトも」。「11月24日（金）16:25脱稿」

（いつも読書メモをありがとうございます。読んでみたい本が頭の中にあふれています。自分の読書の参考になりたいと思います。「まとめ・つぶやき」はますます充実しています。 エドワリ）

㊦ ビー玉で作る結晶模型 高見沢一男さん （4ペ）

高見沢さんの「ビー玉パズル」のその後の研究。

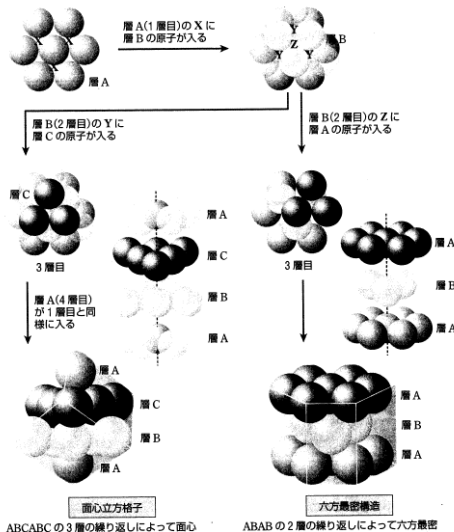
I 衝撃の事実 面心立方格子と六方最密構造とは別のものだった！

今まで、六方最密構造を別の方向から見れば面心立方格子になると思っていましたが、第一学習社の「化学」の教科書にも載っている通り、まったく別のものでした。

以下に述べるように、三角形を基本にしてビー玉を積み重ねると、積み重ね方は無限にあります。そのうちの一つの並べ方が六方最密構造と呼ばれ、別の一つの並べ方が面心立方格子と呼ばれています。

ビー玉を原子と考えると、実際の金属の結晶はこの二つのどちらかになっている事が多く、六方最密構造をとっている金属には Sc Ti Co Zn Y Zr Tc Ru Cd などがあり、面心立方構造をとっている金属には Ni Cu Rh Pd Ag Pt Au などがあります。その他にも、ランタン型やサマリウム型などが実際の金属の結晶には見られます。

最密充填構造ではありませんが、体心立方構造をとっている金属には V Cr Fe Nb Mo W などがあります。



II 三角形を基本にしたビー玉の積み重ね方 III 四角形を基本にしたビー玉の積み重ね方

第一学習社『化学』11 ページより

(高見沢さんのビー玉でつくる結晶の研究。色々試行錯誤されているようです。 エンドリ)

㊼ <今月の本紹介 2 2 > ぺ)

増田伸夫さん(2 4

【要約】：死を弔うことに特化してしまった日本の仏教
設問形式による本の紹介。

☆池上 彰 著『池上彰と考える、仏教って何ですか』

(飛鳥新社) 【文庫版】 定価：本体 556 円 (税別)

(2014 年 10 月 20 日 第 1 刷発行 2014 年 11 月 13 日 第 3 刷発行)

著者の池上彰は 1950 年、長野県生まれ。NHK 退職後はフリージャーナリスト。著書に『世界を変えた 10 冊の本』(文叢春秋)，『池上彰の宗教がわかれば世界が見える』(文春新書) など、共著に『新・戦争論』(文春新書)，『大世界史』(文春新書) など多数。

*

前回読んだ児玉浩憲著『これならわかる一神教の世界』(花伝社)で、「じつは私は

仏教のことをほとんど何も知らなかったんだなあ」と思わされた。そこで、もう少し仏教関連の本を読んでみたくなった。

本書では、＜分かりやすい解説＞で定評のある池上彰が、仏教にまつわる疑問（そもそも仏教って何ですか？／仏教はどこでどのように生まれた？／お経って何ですか？…）を幅広い視点から解説し、仏教の全体像を明かしてくれている。そこで、今回も設問形式で本書の紹介を試みたい。

◇ブッダ（悩みと瞑想の宗教）	◇お墓と先祖供養
◇ブッダ～イエス～ムハンマド	◇仏教とお葬式の出会い
◇「諸行無常」と「諸法無我」	◇僧侶と葬儀
◇「四苦八苦」（四苦+四苦=八苦）	◇奈良東大寺の僧侶と葬儀／お墓
◇煩惱と「涅槃寂靜」	◇お葬式を積極的に引き受けた僧侶たち
◇出家の目的	◇鎌倉仏教の革新性（葬式仏教は日本仏教の革命的進歩）
◇ブッダと輪廻転生	◇檀家制度
◇苦の人生観と古代インド社会	◇幕府の思惑（檀家制度はじまりの理由）
◇急成長しているインドのIT産業とカースト	◇本寺・末寺制度（本末制度）
◇中国仏教と三蔵法師	◇独特な日本仏教（葬式仏教への道）
◇仏教は求めるもの（広めようという意味はない）	◇四十九日法要
◇仏教用語と読み方	◇オウム真理教
◇授戒	◇他の人と同じであることを大切に日本人
◇鑑真と戒壇院	◇池上彰の父親とその葬儀
◇仏教と神道	◇キリスト教と進化論／宇宙論
◇鎌倉仏教の登場（法然、親鸞、栄西、道元、日蓮…）	◇科学的な態度の仏教
◇日本仏教のさまざまな宗派（念仏、お題目、呪文、座禅…）	◇池上の考える「死んだらどうなるか」
◇仏教と「死」担当	◇死者を弔うことに特化して、教え（よりよく生きる）がかすんでいる日本の仏教
◇火葬と土葬	◇生前に戒名を考えることで、今やるべき事が浮き彫りに

＊

＜一言で言えば＞：死を弔うことに特化した日本の仏教

さて、この本の内容を一言でいえば「庶民の願いに応え、積極的に葬式を引き受けた鎌倉仏教がきっかけとなって、日本の仏教は死を弔うことに特化していった。そのため、本来の＜よりよく生きるための教え＞という仏教の側面がかすんでしまった」ということになるだろうか。

＜本書の要約＞

〔第1章：仏教って何ですか？〕

〔第2章：ドラマ法王の対談〕（インドへ）

〔第3章：仏教で人は救われるのか〕

＊

＜池上彰の原子論的世界観＞

本書の中で最も興味深かったのは、池上彰の「死んだらどうなるか」観だ。あれほど

に原子論的世界観だとは思わなかった（板倉さんの原子論的世界観に酷似！）。

本書の内容は幅広い。それは池上の幅の広さ／懐の深さによるのであろう。そして、常に「過去の歴史が現代にどうコダマしているか」を意識しているのが池上のすごいところだ。だから読んでいておもしろい。薄くて入門的な本ではあるが、「仏教もおもしろい。さすが池上彰だ」と私に思わせてくれた本であった。ぜひご一読を。（増田）
（増田さんの関心も一神教から仏教へ。仏教も奥の深い宗教ですね。 エントウ）

⑳ <信州イスラーム世界勉強会⑤> 増田伸夫さん（４ペ）

信州イスラーム世界勉強会のメモ。

連続講座「イスラームをその土台から眺めなおす」（全８回）
講座５：「「十字軍」から「反テロ戦争」まで」の要旨
講師：板垣雄三（東京大学東洋文化研究所名誉教授／イスラーム学）
場所：松本市中央公民館（M ウイング）（参加費：¥１００－）
報告：増田伸夫（中野市）

《講義メモ》

<板垣氏の現状認識>

①いまは、グローバルな反テロ戦争の最中にある（戦中である！）

②いまは、核戦争まで起こりかねない状況にある（米と北）

<本日の論点>

☆イスラームを知るためには、視野を拓げなければならない

→①キリスト教の「正統」と「異端」（なぜどろどろの論争に？）

→②ユダヤ教徒とユダヤ人（フロイト仮説・研究の意味とは？）

→③十字軍とモンゴル（アッシジの聖フランチェスコ）→時間切れ

（とりあえず、反テロ戦争については置いておく？→次回以降？）

<一言でいえば>：今回の第５回講座をひとことでいえば、「一神教の憎しみの世界は、その起源に立ち戻ることによってのみ克服できる」ということになるだろうか。今回の要約は、「イエスを特別視したいキリスト教は、ドロドロの異端論争の末に（佐藤優に言わせると「もう信じるしかない」という）「三位一体論」を形成した。十字軍はヨーロッパ世界の「異なる宗教は必ず争いになる」という「二つの世界」観から、内に反ユダヤ主義を抱きつつ、外に反イスラームを掲げてイスラーム世界へ進出していった。キリスト教の中であって、イスラームと積極的に関わろうとしたアッシジの聖フランチェスコのような人をもっと評価すべきだ」となるだろう。

*

＜感想＞今回の講座⑤の表題は「十字軍から反テロ戦争まで」であったが、実際の内容は＜十字軍や反テロ戦争を考えるための基礎知識＞だった。十字軍についてはやや時間切れ、反テロ戦争については次回（法事・サークル例会と重なる！）に持ち越し。講座の中で板垣氏がちらっと話題にした「なぜ息子ブッシュが＜悪の枢軸＞としてイラク、イランのほかに北朝鮮を入れたのか」の真相を知りたいと思った（私の予想は「石油利権隠蔽のため」だが）。（増田）

《次回の予定》第6回：「イスラーム国家、イスラーム社会」

12/16（土）1：30～ あがたの森

（イスラームを理解するために視野を広げて。他の宗教との関係を理解することが大切なようです。エトワ）

④ 山路さんからの返事 増田伸夫さん（1ペ）

『お葬式をどうする』の感想に対する山路さんの返事。

増田さんの＜池上彰の仏教紹介の本＞の紹介について、山路さんは次のように書いています。

一番感動したのは池上さんの「死について」です。板倉さんの「死んだらどうなるか」の要点そのものです。池上さんが原子論を深く学んだとは思えないので、＜板倉さんから学んだ＞といってもいいとボクも思います。いい本の紹介をありがとうございます。

（山路さんも、池上さんは板倉さんの「原子論的世界観」を学んでいるのではないかと予想しているようです。エトワ）



あとがき 今年も残すところ2週間あまりとなってしまいました。サークルではいろいろな本が紹介され、これは読んでみたいと思う本がたくさんあったのですが、普段の仕事に追われてほとんど読むことができませんでした。やはり仕事を効率化し、自分の時間を作りださなければダメだと実感しています。来年度はどうなることやら。転勤の時期にもなっているので・・・。（エンドウ）

[連絡] 会場の都合で、2月例会は第3土曜日の17日、第1会議室になります。

★ 今後の予定 ★
12月16日（土）
1月27日（土）
2月17日（土）